

教育委員会会議の議事録（平成30年4月定例）

◆ 日 時 平成30年4月12日（木）午後3時から午後4時18分まで

◆ 場 所 上杉分庁舎 教育局第1会議室

◆ 出席委員

教 育 長	佐々木 洋
委員・教育長職務代理者	吉田 利弘
委 員	齋藤 道子
委 員	加藤 道代
委 員	花輪 公雄
委 員	中村 尚子
委 員	里村 正治

◆ 会議の概要

- 1 開 会 午後3時
- 2 議事録承認 2月定例会
- 3 議事録署名委員の指名 中村委員
- 4 報告事項

（1）市議会報告について

（総務課長 報告）

資料にもとづき報告

齋藤委員 報告書を読んで特に思ったのは、やはり人は人と人との支えて生きていくもので、人は一人では生きていけないものだという事であり、やはり大人自身がきちんとした姿勢で向き合っていかなければいけないと感じた。教育委員会はもとより、学校、そして家庭、地域も、大人が示す姿勢を子供に見せていくことが、いじめを根絶する一番の要因であり、人を思いやり、尊重する気持ちにつながっていくことを、襟を正して聞いていた次第である。

18ページの小田島議員からの質疑「管理職等への適切な支援について」に対する答弁で専任の学校経営相談員が校長の支援を行っているとのことだが、どのような

方が相談員をしているのか教えてほしい。

教育人事部参事 今年度の学校経営相談員は、小学校校長OB 2名、中学校校長OB 1名の3名体制で各学校を回り、校長の相談を受けたり、校長に対して指導・助言を行う予定である。これまでは新任と2年目の校長がいる学校を中心に巡回していたが、今年度は相談員が増員されたことから全校を巡回する予定である。

花輪委員 いじめ、不登校、35人学級等を中心にさまざまな質疑が行われたことが分かった。その中で、いじめ対策推進室の位置づけがやや曖昧だったことで非常に多くの質疑があったと思う。そういった中で次第にはっきりしてきたのは、一つは総括検証を行うこと、もう一つはいろいろな組織体の連絡調整を行うことだと思う。やはり走りながらも常にいじめ対策推進室の位置づけが問われていくので、考えていかなければいけない。教育局も協力し、支えていってほしい。

1点、8ページの上から3行目、明治維新150年の意義のところ、「顕彰すべきもの」の「ケンショウ」がチェック・アンド・レビューの「検証」ともとれる内容だと思う。正式な議事録がどうなるか分からないが、ここはアプリアリに「顕彰すべきもの」と私は思えないので、考えていただきたいと思う。

教育長 3行目の「ケンショウ」という用語だが、なお最終的な議事録が議会から示されるので確認していただきたい。

吉田委員 35人以下学級について多くの議員から質問されている。中学2年生を対象にして実施されているが、実際この施策で学級数がいくつ増えたのか、そのうち20人以下の学級がいくつあるのか教えていただきたい。

教育人事部長 これまで40人学級だったものを35人以下学級にしたところ、29校で30学級増えた。20人以下の学級については、確認した後にお答えしたい。

吉田委員 子供たちのために多額の予算を費やした新しい施策だと受け止めている。したがって、この施策を実施するに当たり、35人以下学級にした場合の効果的な学級運営のあり方や、留意点が多分にあるはずである。その点について、学校に対する指導や通知はしているのか。

教育人事部長 現在そのような通知はしていないが、今後、学校の実情などを確認し、教育センターとも連携しながら、学級担任、教科指導のあり方について指導を強化していきたい。

吉田委員 既に小学校1年生、2年生、中学校1年生で実施しているので、そんなものだろうと受け止められる部分もあると思うが、新しい施策なので、効果面でメリットもあれば、デメリットもあると思う。その辺を十分探り出しながら、学校がより効果的に活用できるよう、教育委員会の働きかけをお願いしたい。

教育人事部長 今回中学校2年生で新規に導入したタイミングなので、その効果、メリットもデメリットもいろいろな策を講じながら洗い出しできるように考えてまいりたい。

里村委員 35人以下学級については、人数を減らしたからといって今までの問題が解消するわけではない。今の段階ではいくつかの施策を考えておき、学校運営にそれが徹底されるように話し合いや指導をしていくことだと思う。半年なり1年経過後、学校の状況が改善されるなど、変わった際にそれを評価する基準をあらかじめ決めておき、照合することが大事。35人学級が求めている理想的な姿をいくつか描いておき、そこに到達したのかどうか。「お金は使ったが、目に見える形で効果が出ていないのではないか」という質問に対して、ここはまだ道半ばだが、この点は想定したと

おりの結果が出ている、あるいはまだ積み残しで 31 年度も引き続きやっていくなど、評価基準の中で説明できるように準備をしていく必要がある。

教育人事部長 まさにそのとおりで、人数を減らすことが即効果につながるものではないと思う。しかし、今学校に取り組んでもらおうとしている、生徒に対する個人面談など、さまざまな指導の中で内容の濃さといったものがよりメリットを生むということは考えられる。そうした我々が描く理想像を、数的にすぐにお示しするのは難しいが、定性的に拾い上げていくことができることもあると思うので、しっかりと取り組んでまいりたい。

教 育 長 今年度の中学 2 年生は 35 人以下学級になったので前年度、前々年度の 40 人以下学級と比較して、いいこと、達成していないこと、そういった効果測定的な視点で学校ヒアリング、あるいは教育委員会での分析をしなければ次年度に活かせないと思う。そういった部分も含めて教育委員会での精査が必要だろう。

5 付 議 事 項

第 1 号議案 平成 29 年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について

(総務課長 説明)

原案のとおり決定

第 2 号議案 平成 29 年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に係る学識経験者の選任について
(秘密会)

(総務課長 説明)

原案のとおり決定

第 3 号議案 臨時代理に関する件について
(秘密会) (仙台市博物館協議会委員の委嘱等について)

(博物館長 説明)

原案のとおり承認

第 4 号議案 臨時代理に関する件について
(秘密会) (仙台市図書館協議会委員の委嘱について)

(市民図書館長 説明)

原案のとおり承認

教 育 長 最後に、事務局から連絡事項等があればお願いします。

教育人事部長 先ほどご質問があった中学校 2 年生の 20 人以下学級の件だが、中学校 2 年生については、普通学級全体で 258 あり、そのうち 20 人以下の学級が 3 学級である。しかし、いずれも単学級の学校であり、35 人以下学級にしたことによる影響はなかった。ちなみに、中 1 では 4 学級で、うち 1 校だけ 20 人と 19 人になっている状

況である。

吉 田 委 員　やはり上の学年であればあるほど、少人数のよさと、反作用がある。小学校の低学年であれば、すべて教師が関わるのでいいと思う。ところが、学年が上がるにつれて教師との関わりの度合いがどうなのかという難しい問題も出てくる。我々は、35人以下学級よかれではなくて、そのようなところにも注意を払った学級経営・運営も考えていかなければならないということで質問させていただいた。

6 閉　　　　　　会　　　　　　午後 4 時 18 分